

- 1 日 時 令和5年2月7日(火) 14:25～15:15
- 2 場 所 青森県立大湊高等学校会議室
- 3 出席者 (12名)
 - (1) 学校評議員(2名)

学校評議員A(教育に関する理解及び見識を有する。元PTA副会長)
学校評議員B(本校の通学区域内にある町内会で熱心に活動をされている。本校卒業生)
 - (2) 本校教職員(10名)

校長、教頭、事務長、教務部主任、生徒指導部主任、進路指導部主任、各年次主任、
教務部員(記録)
- 4 欠席者(2名)

学校評議員C(教育に関する理解及び見識を有する。2年次保護者卒業生)後日聞き取る
学校評議員D(教育に関する理解及び見識を有する。元PTA会長)急用で欠席
- 5 配布資料
 - (1) 令和4年度第1回学校評価アンケート結果、第2回学校評価アンケート結果
 - (2) 令和4年度分掌・年次 経営計画・年間計画・評価
 - (3) 令和4年度進学合格先、公務員・就職内定先一覧
 - (4) スクールポリシー案
 - (5) 令和4年度部活動戦績一覧
 - (6) 分掌・年次通信等(2学期分)
 - (7) 大湊高校の活躍
- 6 議事内容(進行:教頭)
 - (1) 開会
 - (2) 校長挨拶

お忙しいなか、学校活動への振り返りにご協力ありがとうございます。
今年度の最上位目標は「主体性」です。現在途上ではありますが教員は精一杯取り組んでおります。
成果については後ほど、分掌・年次主任より説明があります。

今年度、いくつか変更した点についてお伝えします。

① 職員室の配置変更

従来は3年次と進路指導部が同じ職員室であったが、1～3年次を同じ職員室に配置した。理由は、本校の教員の年齢層が若く、初めての担任を務める教員が多いからである。この配置により他年次の教員の業務・生徒対応等を学ぶことができる体制とした。

また、キャリアをサポートすることをねらいとし、進路指導部と探究デザイン部を同室に配置した。さらに生徒指導部は新たに単独の職員室を設け、情報共有を密にできるようにした。

② 特化クラスの廃止

本校は成績層の幅が広いと、長年入試の点数による特化クラスを設定していたが、今年度は特化クラスを廃止し、成績層に偏らないようにHR編成を行った。その中で、成績上位者が苦手な生徒に教える様子や、周囲の勉強に向かう姿勢に刺激を受けて変化する様子、勉学に励む集団がHRを超えて形成しつつある等、主体的な様子が見られた。上位層を伸ばし、下位層の底上げというしかけ作りを

してもらった。

年次全体で全HRをサポートするようしてきた結果を、今後検証していく。

③面談についての工夫

面談の積極的な実施を勧め、面談用教室の設置を行った。担任と全保護者との二者面談の実施を励行した。この結果、保護者の抱える不安要素を汲み取り、生徒の学校・家庭での様子を深く共有できたと担任団からは聞いている。

④ 本校のマスコットキャラクターみなっぺの着ぐるみを作成し各行事で着用した。

打つ手は無限と考えているので楽しいことや厳しいことを教員と考え、実行している。

様々な取り組みに対し厳しいご意見・応援の声をいただき、年度末まで改良を重ね、次年度へ繋げたいと思っております。

(3) 令和4年度の本校教育活動について

① 学校評価アンケート結果について（教務部主任）

資料の集計結果を提示。

第1回、第2回、自由記述について回答ということを示した。

・第1回について、P1全年次生徒対象結果で増減について昨年度から上昇している項目がある。

反面、P2では保護者対象結果で増減について下がっている項目がある。

この結果を踏まえて改善に取組後の第2回の結果である。

生徒対象の結果の増減で下降した項目が増えている。下降した項目で評定値3.0以下の項目があるが、年次によって数値に違いがある。2年次の評定値は1・3年次より低い傾向にある。

・保護者について、上昇した項目（項目2，7）が見られる。

生徒と保護者の回答結果に差が見られる。生徒に比べて保護者の評定値が高く出ている。原因は調査中である。

評定値で3.0以下のものは検討が必要である。

・第2回教職員対象のアンケートではワークライフバランスの項目が低い。改善が必要である。

自由記述については記載の通り。

② 各分掌・年次の評価（1月末現在）について（各分掌主任）

ア 教務部

・教育課程編成について

1年次に対応した新教育課程の編成のなかで自由選択科目の設定が不十分であるが、現在各教科会議、教育課程委員会を通して準備している。観点別評価への変更については家庭へ通知・連絡しており、理解が得られていると感じている。

・研修関係について

計画的に実施できた。互見授業は授業改善につながることから、次年度も計画的に行いたい。また、先進校訪問を含めた校外研修と校内研修をリンクさせ効果的に行いたい。

・ICTの活用について

学校全体でも出欠管理で活用。その他、教科でも活用・管理した。出席関係の処理についての対応は改善の余地がある。学校評価アンケートにおいても紙面との併用で実施したが、回答率が低いため検討する。

・主体性について

目指す資質能力を確認し共通理解が得られた。スクールポリシーの設定においては、若手教員集団におけるワーキンググループでの土台作り、全校生徒へのアンケート実施、教員研修における意見集約、学校評議員のアドバイスを受ける等生みの苦しみを経た。今後の教育課程の編成等グランドデザインの作成に役立てたい。

イ 生徒指導部

- ・コロナ禍で制限された学校生活を余儀なくされたが、生徒が成長をできる工夫をした。全ての行事を、規制の中で実施することができた。文化祭は保護者が足を運べる工夫をした。また、様子が分かるように HP 等にアップロードしている。
- ・生徒の様子についてはコロナ禍の影響が大きく、質的な変化見られるため、注意深く観察して慎重に対応を考えられるようにしていきたい。
- ・職員室の配置変更・分掌編成により、情報共有が密になった。
- ・学校生活アンケートについては継続して実施する。生徒の声をくみ取り対応した。
- ・今年度から環境保健部を吸収した活動となったが、環境整備にも重点を置き、クリーンフライデー（金曜日の清掃強化）を実施した。継続的な実施と内容等も改善していきたい。

総括として

年次・分掌との連携は充実し、情報交換が密になった。コロナの影響により、安易な欠席等生徒の様子に変化が見られた。このような課題に対して引き続き指導・対策が求められる。

ウ 進路指導部

生徒の主体的な活動が進路達成に繋がることからスキルアップ単位認定制度の活用を促した。

- ・課外活動の参加体制強化、スキルアッププログラム登録等手探りではあったが、徐々に参加率は増加した。
- ・大湊高校出身の方を講師として招く職業人講話でも、参加後のレポートをまとめスキルアップ単位認定へ繋げた。今後も幅を広げ、地域へ目を向けさせたい。

課外活動への参加が進路達成へつながることを理解する生徒が増加した。

教員も進路指導の在り方を学び、生徒に効果的に還元できるような研修を企画できるようにしたい。

進路状況については別紙参照

エ 1 年次

- ・授業で育てるという点について

コロナの影響から制限付きの部活・行事、リモート授業を経験してきているという背景がある。課題として基礎的な点の欠如、生活習慣の乱れ、体力不足、希薄な人間関係という点があげられる。これらの課題に対して日々の授業を通して、生活習慣・良好な人間関係の構築について手立てを工夫し、この点に加え、進路達成に向けた基礎学力の向上を目指している。

- ・どんな仲間とも共生できる人間性を育てるという点について

年次内の雰囲気을大事にしたい。夏季休業はワークショップを実施。講習の行い方として希望制の未来塾を実施。主体性を育む点から、強制的な勉強でなく自分のため未来のための学習会を実施した。参加者は30人程度、グループで教え合う様子も見られた。

学力は二極化している。上位層を伸ばしつつ、学習方法もわからないという生徒層も汲み上げ、取

りこぼしの無いように対応したい。

様々な活動を通し、生徒の成長から良い方向に進んでいるように感じる。引き続き進路達成に向けて継続したい。

オ 2年次

生徒は素直であり、表情や行動に出やすいという印象であり、自己中心的な言動も見受けられる。コロナの影響から、様々なことの経験不足が原因と考えられる。学校生活のなかで経験させる場を設けたい。修学旅行では生徒間の交流が充実、関係性の幅が広がった。

進路指導部と連携し、講演会等への参加率増加し、進路活動が充実した。

次年度にむけて経験を積み進路達成につなげたい。

カ 3年次

・自己規律の確立

進路活動を見据え、基本的な生活習慣・生活リズムを整えさせた。また、家庭との連携を密にすることで欠席数を減らすことができた。

行事等でもリーダーシップを発揮した。

・基礎学力の向上

中間層以下は苦しんだ部分も見られた。一方で主体性を伸ばしながら学力を伸ばす指導スキルを教員が学ぶ必要もある。

・自己理解のさらなる深化と自己肯定・効力感の高揚、進路目標の達成

総合的な探究の時間での課題研究の充実や課外活動・ボランティアへの参加率が増加したことが進路達成に繋がっていると感じる。

総括

分掌・他年次と連携はできた。

次年度も総合学科の魅力を活かした取り組みを継続してもらいたい。

キ 学校評議員からの質疑および提言

学校評議員 B

・ワークライフバランスの数値から教員の多忙が見える。その点が心配である。

・全年次担任団が同じ職員室配置であることには賛成である。3年次教員の生徒対応等を1・2年次教員が見られれば良い方向に繋がると思う。

・アンケート結果から家庭内で保護者と生徒のやり取りが上手くいっていないと思われる。

・7月課題研究発表会に出席した。発表の完成度が高く感動した。課題の設定はどうやっているか？
(2年次) 2年次では4月ジオパークで課題研究の練習し、12月に自分で課題内容設定、2月は発表に向けた準備を行っている。以上の内容を1単位で実施している。

(3年次) 3年次は2単位で対応している。不足分は放課後も時間を使いながら発表準備をしている。外部関係者へのアポイントメントを生徒が取ることもある。3年次は2年次から継続し発展・充実を図った。

・夏季休業中に大学等外部の講座へどんどん積極的に参加させてほしいと思う。

学校評議員 A

- ・コロナの影響から制限を受け、未熟な中学生がこれから入学してくる。その指導が大変そうに思う。より一層の目配りが大事である。
- ・保護者との二者面談の実施について良いと思う。家庭との連携が薄くなり、学校教育への理解がなく、誤解も生じるのではないか。今後は工夫が必要な部分である。
- ・教職員アンケートについて、「わからない」という回答があるのはどういうことなのかと思う。問の設定について見直しが必要と考えられる。
- ・生徒アンケートのなかで、昨年度に比較して図書室に関するもので良い傾向が見られる。加えて1回目の評議員会議でお願いした中高生新聞の活用を検討してみてもは欲しい。廊下・HRに設置することを提案する。インターネット以外の媒体での情報も必要である。
- ・今年は身近に選挙があり、「社会を知ること」を指導する良い機会となるので授業等で取り上げることを提案する。
- ・予告メールについての対応はどのようにしたか。
(校長)メールは校長から県教委と連携して対応した。事務室では施錠・見回りを実施した。校内では生徒指導部にのみに伝えた。生徒・保護者には校長判断で伝えていない。
- ・家庭での生徒保護者のやりとりがうまくできていないと感じる。アンケート等については、ICTの活用もいいが、文書での処理の指導も必要であると思う。提出物の提出期限厳守においても指導強化が必要である。社会に出たときに期限を守ることは大事なことである。

(後日、学校評議員Cから、子供達には、単に良い成績をとることばかりに固執するのではなく、社会に出てから周囲の人とうまくやっていけるコミュニケーション能力や、物事を話し合っ解決していけるような力を付けてやってほしいというご提言をいただいた。)

(4) スクールポリシー案について

以下の点を柱に作成中である。次年度はこれを基にしてグランドデザインの作成を行う。

生徒育成方針・・・どういった資質能力を育成するか

教育課程方針・・・どういった授業を実施

求める生徒像・・・入学にあたって求める生徒の提示

ご意見をいただきたい。

(後日、2回にわたり学校評議員Bから具体的なアドバイスを紙面でいただく。)

(5) 校長謝辞

ご指摘ありがとうございました

学校教育改善につながるご意見がありましたらよろしく申し上げます。

本日はありがとうございました。

(6) 閉会